氷見の元気を発信する情報誌

広報ひみ

1

January.2017
No.759

安定した雇用を創出する 基本目標Ⅰ
新しいひとの流れをつくる 基本目標Ⅱ
結婚・出産・子育ての希望をかなえる 基本目標Ⅲ
時代に合った地域をつくる 基本目標Ⅳ

地方創生の関連記事を「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標で分類し、記事の上に目印を表示しました。

ふるさと納税 氷見 Himi

全国の皆様 “ふるさと納税1億円突破” ありがとうございました！

（関連記事は9ページ）

2 新春のごあいさつ
4 平成28年氷見市10大ニュース
6 特集　ぶり奨学プログラム 始まります！
10 旧市民病院跡地の利活用
風景の中に様々な居場所を創る
12 「市長のまちづくりふれあいトーク」総まとめ

新春のごあいさつ

氷見市長
本川　祐治郎

輝かしい新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。市民の皆様におかれましては、平素より市政の発展に温かいご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

「地方創生」をかたちにするため、氷見市は今、真摯な市民協働を拡げ、全国に先駆けた新しい〈自治体の仕組みづくり〉に邁進しています。

この3年間で、市債を40億円減額し、ふるさと納税1億円を達成するなど、まずは、財政の健全化に努め、その状況をお知らせする「分かりやすい予算書」を全戸配布したり、市民誰もがいつでもどこからでも気軽につぶやきを投稿できる「ひみボイス」を運用開始いたしました。

また、「市民の声・市民要望公開システム」により、各地域のお声を公開の記録として残し、具体的な地域づくりへの取組を資金面でも応援する「おらっちゃ創生支援事業提案会」を年4回開催するように拡充し、高校生や子育てママ、福祉関係者、民間企業の女性管理職など多彩な世代・分野の女性が政策提案する「女性議会」も15年ぶりに再開できました（元旦よりケーブルテレビで放送）。

これからは、〈官製政治から市民協働政治へ〉、〈地方分権から地域内分権へ〉の流れが到来する時代です。様々な経験や得意分野、それぞれの世代の考えをお持ちの市（志）民の皆様誰もが、普段着で自治体とつながり、未来の政策をいっしょに紡ぎあげ、行（考）動していく時代です。

そのような未来を見据えこれまでのべ200回近く約7千名の方々と、「ふれあいトーク」や各種の「まちづくりワークショップ」で知恵を出し合い、「市民と行政が日本で一番近いまち氷見」の理想に向かってまいりました。引き続き、福祉や介護、健康・スポーツ、文化など、あらゆる分野でも〈温かな対話のある市政〉を進め、「地方創生」を自分ごとから、みんなごと、世の中ごとへと広げられるよう取り組んでまいります。

市民の皆様、お一人おひとりのご健勝とご多幸をいつも心から祈念申し上げております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

氷見市議会議長
嶋田　茂

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、夢と希望に満ちた新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、選挙権年齢が十八歳に引下げられるとともに、政治とカネに関わる問題をはじめ、議員報酬や政務活動費、地方議会のあり方等々、皆様の政治に対する関心を大いに集めた年でありました。

一方、本市議会では、昨年に引き続き、定例会ごとに活発な議論が展開され、その都度、良識ある判断がなされるとともに、関心の高い政務活動費については、平成二十八年度分から議会が自発的に開示していくことを決定するなど、時代に応じた開かれた議会を目指した一年でもありました。

さて、今年の干支は酉（とり）であります。収穫した果実から酒を作る行為に由来するという説がありますが、正に、これまでの苦労が報われる年であることを切に願いますとともに、地方創生、一億総活躍社会へと着実に前進していくため、氷見市の未来を明るく描いていける年にしていかなければならないと思っております。

そのためには、市議会自らが襟をただし、自らの責任を自覚した上で、市政運営の厳しいチェックと政策提言に努めていくことが大切であります。

本市議会といたしましても、引き続き、よりよい郷土づくりを目指して時代のニーズに応じた市民本位の行政運営が実現されるよう全力を傾けてまいる所存でありますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。

平成29年 市内各施設 仕事始め

4日から

■市役所※1　☎74－8100
■自動交付機
（印鑑証明、住民票、市県民税 所得・課税証明）
■コンビニ交付（印鑑証明、住民票、戸籍証明書（謄本、抄本）、戸籍の附票）
■水道の開閉栓　☎74－8206
■燃やせるごみ（高岡広域エコ・クリーンセンター）　☎91－2100
■燃やせないごみ（不燃物処理センター）　☎76－1153
■分別資源ごみ※2（リサイクルプラザ）　☎76－8020
■金沢医科大学氷見市民病院※3　☎74－1900
■（一社）氷見市観光協会（JR氷見駅内）　☎74－5250
■海浜植物園　☎91－0100
■潮風ギャラリー　☎72－4800
■中央公民館　☎74－8240
■ふれあいスポーツセンター　☎74－8500
■市民プール※4・トレーニングセンター※4　☎91－5000
■いきいき元気館　☎74－8063
■寿養荘　☎74－8400

5日から

■図書館　☎74－8226
■博物館　☎74－8231
■働く婦人の家（ホビーラ大浦）　☎91－4109

★ひみ漁業交流館 魚々座（☎74－8018）は、平成28年11月1日から、指定管理者による運営への移行に向けた準備などのため、一時休館しています。

※1 休業期間中、出生・婚姻・死亡届、福祉医療費請求書（ピンク・緑色の用紙）の発行などは、日直者（宿直者）が受け付けます。
場所 宿日直室（正面玄関向かって右、西側入口）

※2 1月2日(月)、3日(火)が分別資源ごみの収集日の地区は、下表のとおり収集日を変更します。

※3 休業期間中も救急診療は行っています。受診する際は、必ず健康保険証をご持参ください。

※4 1月4日(水)は午後2時から営業します。

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

分別資源ごみの収集日（1月2日・3日）の振替日

地区名	収集を休む日	収集を行う振替日		
		缶・びん・紙製容器包装・段ボール・新聞・雑誌類	プラスチック製容器包装	燃やせないごみ
上田・中村	1月2日(月)	－	1月7日(土)	1月16日(月)
谷屋・新保・論田・熊無	1月2日(月)	－	1月7日(土)	1月16日(月)
小窪・田江・早借・小久米・日詰・日名田・三尾・床鍋・葛葉	1月2日(月)	－	1月7日(土)	1月16日(月)
久目・触坂・桑院・赤毛・土倉・坪池・棚懸・一の島・上岩瀬・下岩瀬・老谷・見内	1月2日(月)	1月7日(土)	1月7日(土)	1月16日(月)
窪・松田江	1月3日(火)	1月8日(日)	1月8日(日)	1月17日(火)
柳田	1月3日(火)	－	1月8日(日)	1月17日(火)

※表にない地区は通常どおりです。
※1月7日(土)、1月8日(日)、1月16日(月)、1月17日(火)に変更になった地区は、収集が遅れることがあります。ご理解とご協力をお願いします。

【問合せ】 環境・交通防犯課　☎74－8082

平成28年 氷見市 10大ニュース

1 15年ぶり 女性議会の開催

• 一般公募で選ばれた女性議員18人（高校生含む）が「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について学び合い、「仕事づくり」「ひとの流れづくり」「結婚・出産・子育て」「地域づくり」の4つの基本目標に基づいて政策提案を行った。

2 氷見駅周辺整備事業の竣工

• 平成23年度から計画策定に着手してきた氷見駅周辺整備が、氷見の玄関口としてふさわしい“漁村文化を感じる駅舎”として完成。そして、鰤のかたちをした雪割り瓦を配置し（写真右下）漁師番屋をイメージしたキャノピー（雨よけ施設）や公共トイレ、さらに駅北広場における自転車駐車場の整備による利用者の利便性と県道改良などによる周辺交通の円滑化が図られた。

3 新文化施設建設予定地が旧市民病院跡地に決定

• 新文化施設の建設予定地について、「グランドデザイン調査検討委員会」や「市議会公共施設利活用等特別委員会」での議論を踏まえ、それぞれの土地条件などを検討。旧市民病院跡地が市街地と中山間地の交流拠点として最も適当であるとの結論にいたった。

（画像© 2016 Google、Terra Metrics、Data Japan Hydrographic Association、Landsat、Data SIO、NOAA、U.S.Navy、NGA、GEBCO、Data LDEO-Columbia、NSF、NOAA、地図データ© 2016 ZENRIN）

4 市公式ホームページのリニューアル・「ひみボイス」運用開始、「分かりやすい予算書」の全戸配布（情報の見える化推進）

• 日本一「市民にやさしい」「市民の声が反映される」「進化していく」ホームページの実現に向けて、市民参加型で検討して整備したホームページが4月1日に公開。
• 市への意見や要望、提案を投稿できるアプリケーション「ひみボイス」の運用を開始。
• 平成28年度予算の概要や現在の財政状況、公金の使われ方などについて、グラフや写真などを用いて分かりやすく説明した予算書を各家庭に配布。

5 2年ぶりの「ひみ寒ぶり」宣言、魚食文化リーディングプロジェクトに弾み

• 氷見魚ブランド対策協議会判定委員会が2年ぶりの「ひみ寒ぶり」宣言。
• 魚食文化の普及と10年、100年先も氷見が魚のまちであり続けるために、市内の水産関連業の振興を図る「魚食文化リーディングプロジェクト」をスタートさせる。「魚食拡大」「商品開発・販路拡大」「魚食観光推進」の3つの分科会に分かれてプロジェクトを実施していく。

6 能越自動車道 氷見南インターチェンジの開通

• 市民待望の氷見南インターチェンジが開通。市内4番目のインターチェンジで、平成26年度に工事着手し、国・県・市で事業を進めてきた。アクセス性の向上に伴う工場誘致促進や周辺観光の発展など、様々な地域活性が期待される。

7 北部中学校が全中ハンドで優勝、市内の少年少女がスポーツ全国大会で入賞

• 北部中学校が全国中学校ハンドボール大会で優勝。
• 稲積少年会野球部が阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会で優勝。
• ソフトテニス富山県チームが全日本小学生ソフトテニス選手権大会で準優勝。
• 氷見高校自転車競技部が全国高等学校総合体育大会自転車競技3kmインディヴィデュアル・パーシュートで優勝。
• 八嶋那乃羽さんが全日本小学生女子相撲大会6年生の部50kg未満級で準優勝など。

8 世界少年野球大会 氷見市ゆかりの王貞治さん来氷

• 日本のホームラン王 王貞治氏、ハンク・アーロン氏の両氏が、正しい野球の普及・発展と青少年の国際交流を目的として始めた世界少年野球大会が高岡市を中心に氷見市でも開催。氷見運動公園野球場で行われた交流試合に王理事長が観戦に訪れ、野球少年たちを激励。

9 氷見市IJU（移住）応援センターがオープン

• 移住定住支援のための交流拠点「氷見市IJU（移住）応援センター（愛称：みらいエンジン）」が中央町に開所。センター長は、（株）地域交流センター企画の代表 明石博之氏。

1月のイベント情報は8ページ

10 ウッドスタート宣言・木育（もくいく）おもちゃの贈呈スタート、市内小6年生教室にエアコン整備（子育て応援）

• 木育のより一層の推進を図るため、自治体で北陸初の「ウッドスタート宣言」を行った。
• 4月以降に誕生されたお子さんを対象に、氷見の木で、氷見の木工作家がつくった、氷見だけの木のおもちゃ「てんま船」をプレゼントする「誕生祝い品事業」をスタート。
• 平成27年度に市内中学校全教室にエアコンが設置されたのに引き続き、今年度は市内の小学校6年生の教室にも設置。

その他にも、こんなことがありました。

- 大浦第2工業団地（仮称）造成工事着工。
- 藤子不二雄Ⓐ先生の人気キャラクター「怪物くん」がふるさと氷見市にユカイツーカイに登場。
- 比美乃江公園パークゴルフ健康広場と公共トイレが完成。
- 北の橋のデザイン案が決定。
- G7富山環境大臣会合にあわせ、氷見ゴールデン・エコ・ウィークを開催。
- ハンドボールまんが『送球ボーイズ』発売。
- 「くめバス」が運行開始。
- 市長部局初の女性部長誕生。
- 戸籍謄本等コンビニ交付サービス、住民票等証明書宅配サービス、本籍地証明書交付サービスの開始。
- デンマークの女子ハンドボールチーム「SKオーフス」が氷見で合宿。

特集

ぶり奨学プログラム始まります！

将来、氷見市に戻ってきたら奨学金、ぶり奨学ローンの返済額を助成します！

氷見市で育った子どもたちが更なる成長のために進学し、氷見市に戻ってふるさとの未来のために活躍できるよう支援する「ぶり奨学プログラム」がスタートします。出世魚で回遊魚の「ひみ寒ぶり」のように、多くの子どもたちがたくさんのことを学び、経験を積み、成長した姿で戻ってくるきっかけをつくり、「回遊する人材を定置網のように受け止めるまち氷見」の実現につなげます。

ぶり奨学プログラムとは…次の6つの取り組みを柱としています。

1 ぶり奨学ローン
通常の教育ローンより優遇されます

ぶり奨学ローンは、氷見市とぶり奨学プログラムについての協定を締結した金融機関が提供する低金利（現時点での利率は1・5％の変動利率）のローンです。

2 ぶり奨学助成制度
ぶり奨学ローンなどの返済額を助成します

ぶり奨学ローンおよび市、県、国の奨学金の返済額の元金および利子相当額を助成します。

ぶり奨学ローンを借り入れた場合には、在学中の利子の返済額を助成します（利子助成金）。また、卒業後10年以内に氷見市に戻ってきた場合には、元金および利子の返済額について助成します（元利助成金）。

3 ぶり奨学寄附制度
ふるさと納税などにより寄附を募ります

このプログラムに必要な資金の一部について、市民の皆さんや氷見市出身の方々から幅広く寄附を募ります。子どもたちが氷見市に戻ってきて、ふるさとの未来のために活躍してほしいという皆さんの思いを共有して支援していきます。

4 ぶり奨学交流事業
氷見市出身の学生や卒業生の交流を図ります

同郷の仲間でふるさとについて語らい、絆を深めてもらうために、氷見市出身の学生や卒業生の交流会を氷見市や首都圏などで開催します。

5 ぶり就職起業支援事業
氷見市における就職・起業を支援します

各企業や団体などと協力しながら、氷見市での就職・起業を応援する取り組みを行います。

6 ぶり大学等連携事業
大学などと連携します

ぶり奨学プログラムの理念に共感する大学などと協力し、連携事業を行います。

★今回のぶり奨学プログラムは「社会実験」として3年間実施されます

今回のぶり奨学プログラムは社会実験として平成29年度から3年間実施し、その期間中に利用状況や成果などをもとに制度の継続などについて議論していく予定です。ただし、その期間中にプログラムに登録した人については、その後も引き続き助成制度などの対象となります。

ぶり奨学ローンを利用するには

ぶり奨学プログラム説明会に出席し、登録申請を行う必要があります。申請の認定後に発行される登録証をお持ちの上、金融機関に直接お申込みください。なお、借り入れにあたっては金融機関での審査があります。

ぶり奨学助成制度を利用するには

こちらの利用についてもぶり奨学プログラム説明会への出席と登録申請が必要となります。申請の認定を受けた上で、ぶり奨学ローンなどを利用した人について、次の条件に基づいて助成金を交付します。

●助成対象となるローンおよび奨学金

ぶり奨学ローン、氷見市育英資金、富山県奨学資金、日本学生支援機構（国）の第一種奨学金、第二種奨学金

●助成対象となる進学先

富山県および石川県以外に所在する大学（大学院を除く）、短期大学、高等専門学校（4、5年次）、専修学校（専門課程）

●助成金の種類

①利子助成金：在学中にかかる利子の返済額について、1年ずつ交付します（最長4年間）。

②元利助成金：卒業後10年以内に氷見市に戻ってきた場合に、元金および利子の返済額の総額の10分の1相当を1年ずつ交付します（最長10年間）。

●助成限度額

借り入れたぶり奨学ローンなどの返済額のうち、月額4万5千円、最大4年間分（216万円）に相当する元金と利子分まで

●利子助成金の対象者

次の条件をすべて満たした人が利子助成金を申請できます。

①富山県および石川県以外の大学などに進学していること

②ぶり奨学プログラムに登録していること

③大学などに在学中にぶり奨学交流事業に年1回以上参加していること

④世帯員が市税を滞納していないこと

●元利助成金の対象者

次の条件をすべて満たした人が元利助成金を申請できます。

①富山県および石川県以外の大学などに進学し、卒業していること

②ぶり奨学プログラムに登録していること

③大学などを卒業後10年以内に氷見市に戻って居住していること

④卒業後、地方公務員および国家公務員の職に就いていないこと

⑤世帯員が市税を滞納していないこと

※ぶり奨学ローンなどを複数借りても助成限度額は変わりません。
※利子分については市で定めた計算方法に基づき助成額を算出します。
※現役大学生などについては、借入済の各種奨学金は助成対象となりませんが、平成29年4月以降に借り入れる奨学金は対象となります。
※休学・留年などで本来よりも長く大学などに在学した場合は、その期間に対応する助成はいたしません。

ぶり奨学プログラム説明会を開催します

ぶり奨学ローンやぶり奨学助成制度などについての説明会を開催します。

ぶり奨学プログラムへの登録申請を予定している人や、制度の利用を検討している人は、次のいずれかの説明会にご出席ください。説明会終了後、希望する人はぶり奨学プログラムへの登録申請を行うことができます。

説明会日時

1月28日(土)　午前9時～11時
1月29日(日)　午前9時～11時
2月25日(土)　午前9時～11時
2月26日(日)　午前9時～11時
3月25日(土)　①午前9時～11時
　②午後1時～3時
3月26日(日)　①午前9時～11時
　②午後1時～3時

場所　氷見市役所（正面入口からお入りください）

対象　制度の利用を検討している学生本人と保護者

持ち物　身分証明書（運転免許証や健康保険証など）

※説明会終了後、登録申請を希望する人は、大学などの合格通知書（大学などに在学中の人は学生証）と印鑑をお持ちください。
※年度途中でぶり奨学ローンなどを借り入れる人のために、夏季にも説明会を開催する予定です。

【問合せ】秘書・市民とともに創る未来政策課　☎74－8011

氷見市育英資金 平成29年度奨学生募集

ぶり奨学助成制度の対象になります

対象　経済的な理由で高校、大学への進学に困っている人

募集人数（一般奨学生）
①高等学校または同程度の学校　若干名
②大学（短期大学・大学院を含む）または同程度の学校　若干名

貸与金額（一般奨学生）
①高等学校　月額1万5千円以内
②大学　月額4万5千円以内

申込　3月31日(金)までに学校を通じてお申込みください。

※遺児などを対象とした特別奨学金制度もあります。詳しくは、お問い合わせください。

【問合せ】教育総務課　☎74－8211

寄附金額、初の１億円突破!!

「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」として平成20年に創設された「ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）」。

氷見市では、全国の皆様からの多大なご厚意のおかげで、今年度の寄附金額が１億円を突破しました。

市外に住む氷見市出身者や“氷見ファン”の皆様とつながり合える本制度を活用して、氷見愛の醸成や地方創生の新たな仕組みづくりを進めてまいりますので、平成29年も氷見市のふるさと納税の取り組みにご協力をお願い申し上げます。

【問合せ】　商工業・しごとづくり・IJUターン応援課　☎74－8105

お申込みの流れ

寄附者

1. 寄附申込み
2. 寄附金入金
3. 寄附金受領証明書の発行
4. 「お礼の品」の発送
5. 申告等

申告等（ワンストップ特例制度適用の場合）

氷見市

最寄りの税務署 または 居住する市区町村

1 寄附申込み

インターネットの専用フォームから申込み
ふるさと納税サイト ふるさとチョイス http://www.furusato-tax.jp/ 専用フォームに、
・申込者（寄附者）情報
・寄附情報（寄附金額、使い道）
・お礼の品情報（ご希望の品、お届け先）
を入力して送信。
※氷見市HPのリンクからもアクセスできます。

または

氷見市ふるさと応援寄附金申込書を郵送
専用の用紙に、
・申込者（寄附者）情報
・寄附情報（寄附金額、使い道）
・お礼の品情報（ご希望の品、お届け先）
を記入して氷見市ふるさと納税担当へ郵送。
※申込用紙はご希望者に郵送いたします。

2 寄附金入金

クレジットカードによる決済
専用フォームからお申込みの方
お支払い方法を「クレジットカード」をお選びいただき、決済画面よりお支払いください。（手数料無料）

または

払込取扱票（郵便局専用）による払込み
専用フォームからお申込みの方
専用の用紙を郵送いたします。最寄りのゆうちょ銀行でお振込みください。（手数料無料）
専用用紙によるお申込みの方
「郵便払込取扱票」よりお振込みください。（手数料無料）

3 寄附金受領証明書の発行
寄附金の入金を確認後、氷見市より寄附金受領証明書を送付します。

4 「お礼の品」の発送
寄附金の入金を確認後、2週間～1ヶ月後に「お礼の品」をお届けいたします。お礼の品の旬や人気度によっては、お届け時期が異なりますのでご了承ください。

5 申告等
その年の所得税の還付と翌年度の住民税の控除を受けることができます。控除を受けるためには、寄附をした翌年の3月15日までに確定申告を行う必要があります。

ふるさと納税ワンストップ特例制度
確定申告の不要な給与所得者などの方がふるさと納税を行う場合、確定申告を行わなくてもふるさと納税の寄附金控除を受けられる仕組みです。
※この特例制度の適用を受けるには、氷見市へ所定の申請書をご提出いただくことが必要になります。

寄附者 → 自治体「5団体」まで 寄附申請書 → ふるさと納税先自治体 → 居住自治体 → 翌年度の住民税の控除 → 寄附者

例えば
氷見市へ1万円の寄附をされた場合　その年の所得税の還付と翌年度の住民税の減額は、合計で最大8,000円※となります。※税の控除額には上限があります。また、所得税・住民税が非課税の方は控除されません。

ふるさと納税 氷見 Himi お礼の品

1万円以上のご寄附をいただいた方に、お礼の品をお届けいたします。
（ご寄附いただいた金額に応じてお選びいただけます。）
こちらで紹介するお礼の品は一例です。
詳しくは、
氷見市　ふるさと納税　検索
でご確認ください。

利用券（ご宿泊、お食事）

例：15万円以上の寄附で「オーベルジュ・ドゥ・ミクニ 1泊2食ペア利用券」

例：2万円以上の寄附で「『わくライナー』で行く氷見民宿 日帰り昼食プランペア利用券」

例：2万円以上の寄附で「氷見回転寿司『粋鮨』お食事券」

海のめぐみ（海産物）

例：5万円以上の寄附で「4ヶ月連続でお届けする鮮魚詰め合わせ」

例：1万円以上の寄附で「氷見産一夜干し 3種」

例：30万円以上の寄附で「ひみ寒ぶり まるごと 1本」
※20万円以上の寄附で「ひみ寒ぶり」をお届けするコースもあります。

ご当地グルメ

例：1万円以上の寄附で「有磯曙 純米吟醸 爽やか酒セット720ml×2本」

例：2万円以上の寄附で「氷見うどん 200g×16本」

例：1万円以上の寄附で「氷見牛カレー（レトルトパウチ）4食セット」

大地のめぐみ（農産物・畜産物）

例：1万円以上の寄附で「氷見米コシヒカリ ひみ穂波 10kg」

例：1万円以上の寄附で「氷見はとむぎ茶 焙煎茶 72パック（10g×12包×6袋）」

例：5万円以上の寄附で「A5氷見牛ロース すき焼き肉 500g×2」

ユーモア

例：3万円以上の寄附で「空き家管理サービス」

例：15万円以上の寄附で「オーダーメイド靴」

※写真はイメージです。実際のものと異なることがございます。また、内容を予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

IJU 応援センターだより

氷見市IJU（移住）応援センター「みらいエンジン」立ち上げから１か月

氷見市に移住したい人を全力で応援する組織「**氷見市IJU（移住）応援センター（愛称：みらいエンジン）**」が立ち上がり、その活動と交流の拠点となる「**まちのタマル場**」が11月8日にオープンしました。それから約1か月間、おかげさまで、市内外のたくさんの皆さんとの素敵な出会いに恵まれました。全員が県外出身者である私たちスタッフにとって、毎日が氷見の魅力発見の日々です。そして、“よそ者”だからこそ、市民の皆さんからの応援や協力は、このうえなく心強いものになっています。

すでに、氷見への移住をお考えの方が、センターにお越しくださいました。現在、お問い合わせの多い相談は、住居の相談です。自然が豊かな里山地区で、古民家に住んでみたいという声をよくお聞きします。長年、お使いになっていらっしゃらない空き家を、もう住むことができないだろうと思い込んでいらっしゃいませんか。「改修して住むから大丈夫」という方もいらっしゃいますので、築年数が古い空き家をお持ちの方はぜひご連絡ください。

【問合せ】　氷見市IJU（移住）応援センター　☎54－0445
商工業・しごとづくり・IJUターン応援課　☎74－8075

空き家情報募集中！

地方へ移住したい方の多くは、古い木造住宅に住みたいようです。とくに昭和20年代以前の古民家が人気です。そのような空き家をお持ちの方、お知り合いにお持ちの方がいらっしゃる場合は、お気軽に、下記の電話番号やメール宛てにご連絡ください。

HIMI IJU みらいエンジン

氷見市中央町５番７号
☎0766－54－0445
メール　info@himi-iju.net
ホームページ　http://himi-iju.net/
開所時間　午前９時30分～午後９時
定休日　毎週水・木曜日

空き家関連の補助制度

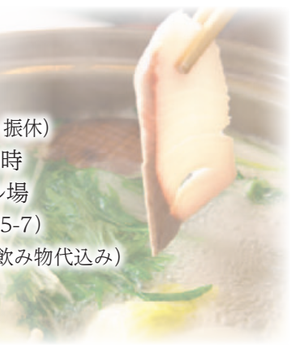
家をお探しの移住希望者は、実際に多数いらっしゃいます。お持ちの空き家を貸してもよいとお考えの方は、ぜひ一度私たちにご相談ください。市の補助制度なども充実していますので、あわせてご紹介します。

・氷見市空き家優良物件化支援補助金
・氷見市住宅リフォーム支援補助金
・氷見市定住マイホーム取得支援補助金

まちのタマル場の使い方

格子窓のある町家の和室に裸電球、ゆったりできる場となっています。いろいろな集まりや待ち合わせなど、お気軽にご利用ください。お茶無料、セルフ本格ドリップコーヒーもご用意できます。

お正月特別企画・鍋をかこんで未来をつつく Uターンする、もう1つのシナリオを発見しよう



お正月に帰省する方で、「Uターン」という選択肢を少しでも残している方へ。「みらいエンジン」正月特別企画へのお誘いです。

氷見に移住してきた若者や、未来の担い手を探している店主さん、小さな事業所の経営者さんらと、新年に鍋をつつきながら、氷見での暮らし方や仕事のあり方について、気軽に楽しく情報交換しましょう。

日　時　1月2日（月・振休）
午後6時～9時
場　所　まちのタマル場
（氷見市中央町5-7）
参加費　1人3千円（飲み物代込み）
※持ち込み大歓迎！

HIMI CITY

風景の中に様々な居場所を創る

新しい豊かな氷見暮らしの拠点をみんなで創ろう

緑の芝のオガール広場でお弁当（岩手県紫波郡紫波町）
©オガール紫波株式会社

氷見市では、文化芸術を通してすべての市民が豊かな人生を感じることができる「新しい豊かな氷見暮らしの拠点」を目指す、新文化施設の整備事業をスタートさせました。

平成28年4月から6回の「市民会議」を開催し、市民の皆さんから様々なアイデアをお寄せいただきました。7月からは「公民連携による新複合施設整備基本計画」の策定に向け、都市計画や建築、景観の専門家も加わり、旧市民病院跡地の約2万㎡の敷地で、施設面積や必要となる駐車台数、広場や緑地など様々な視点から検討を進めています。

公共部分の複合化は、文化芸術関係の練習、発表、展示、鑑賞機能やライブラリー、学習スペースなど、学習支援機能を持たせ、また、乳幼児期の親子が気軽に訪れ、遊ぶことのできる子育て支援機能を併せ持った居心地の良い空間を整備することにより、多様な世代の市民の皆さんが気軽に訪れることができる施設となるよう検討を進めています。

また、民間部分については、カフェやレストランなどの飲食店に加え、氷見ならではの食材などを販売するマルシェなど、様々な案が出されています。

今回は、9月23日に開催された「第5回市民会議」において専門家から提言をいただいた「ランドスケープ（景観・環境）デザインの視点から様々な過ごし方ができる空間や人々の居心地」に関して、ご紹介します。

【問合せ】 芸術・新文化施設マネジメント室 ☎74－8215

風景の中に様々な居場所を創る

日常触れる風景の多くは、ひとによってつくられています。手つかずの自然であっても、その場所を残すと決めて守られていることもあり、そこにはやはり、ひとの関わりが見られます。

風景が、私たちの日々の営みによって生み出されているのだとすれば、全てのひとが「風景をつくる」ことに関わっていると言えます。風景には様々なスケールがあり、机上の風景から室内におけるインテリア、庭、外観、広場、街並み、里山、手つかずの自然まで、特別な区切りがない限り連続しています。いかにその風景になじみ、調和を生むかは、「単一な要素だけでは生まれない調和や時間軸をも含めたその場所らしさをいかにデザインしていくか」にかかっています。

広く私たちを包む世界と私たちの生活の関係を調律していく。そこから見えてくる、内から外へ、外から内へと一繋がりの経験の中で暮らしている風景とは、どのようなものでしょうか。

また、すでにそこに在り、デザインの対象という次元を超えて存在する風景をどのように捉えるべきでしょうか。氷見の風景にふさわしい「場所の体験」のために設えること、そのためには、まずリサーチ作業が必要であり、そこからすべきことが見えてきます。

◆第5回市民会議

目指す空間のイメージを探る

- いろいろな過ごし方を共有できる場所であること。
- それぞれの過ごし方がお互いに感じられること。
- 一人でも居られる場所であること。

氷見市内の位置づけから見えること

海と里山の結節点であると同時に交通上の結節点である。

- 低い山並みと谷がひだを織りなしている。
- それぞれの谷を幾筋もの川が流れ、山と海をつないでいる。
- 谷のひだの中に集落が点在している。
- 主要動線がここに集まってくる。
- 川沿いに港に出られる。

暮らしのスケールを取り込む

- 港町と里山の風景を結ぶ。
- 地域の人が居るスケールに溶け込ませる。
- 国道沿いに新たなスケールを持ち込みシンボル化する。

里山の構造から学べること

- 低い山と山の間に平たい田んぼが広がっている。
- 行き来は楽なのに視点の変化がある。
- 水の扱いが明確になる。

第7回市民会議を傍聴しませんか？

《日時》
1月23日(月)
午後7時～9時

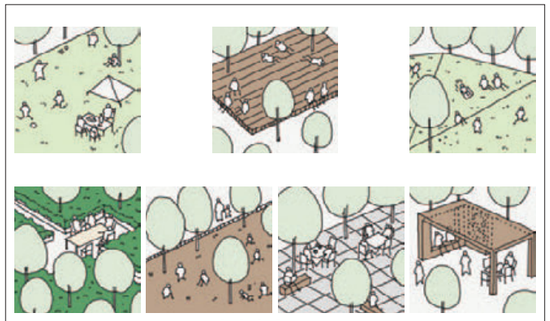
《場所》
ふれあいスポーツセンター会議室

〈空間のイメージの例〉

広場の緑で青空本屋さん開店
©オンサイト計画設計事務所

段々が子どもの遊び場
©オンサイト計画設計事務所

櫓（やぐら）の下でオープンキッチン
©吉田 誠



屋外空間を過ごす設えのいろいろ
©オンサイト計画設計事務所

ここでの過ごし方の可能性

広い芝生
みんなでごはんを食べる。遠足。
のんびりと読み聞かせを行う。
犬の散歩を眺めながら昼食をとる。
風景として楽しめる。
子ども連れでライブを楽しむ。
子どもを遊ばせ、見守る。
1人でも、2人でも、大勢でも過ごせる。
フリーマーケットイベントで氷見をPRする。

デッキテラス（縁台）
木陰で寝転がる。
夕方からビールを楽しむ。
思い思いの過ごし方ができる。

斜面階段席
鬼ごっこの舞台にもなる。
雪遊びもできる。
演奏会や上映会のできる観客席となる。
座ったり寝転んだり。

木立の中
木陰で食事やお酒を楽しむ。
街中キャンプ。

屋根の下
寄り合いやレクチャーの場になる。
放課後の勉強。
雨の日でもコーヒーを飲んでくつろぐ。
屋根の下で名物を楽しむ。
オープンな場で交流する。
勉強会の場や教室になる。

建物と連動した空間
広々とくつろぐ。
外でも食事を楽しめるテラス。
マルシェなどで氷見を楽しむ。
気軽に多世代交流が行われる。
通り抜け空間での食事やイベント。
芝生の上で上映会を楽しむ。